

## 鴨川府民会議メンバーからの意見発表

事前に資料を提出いただいた方

(敬称略、五十音順)

池永 昇

上田 文博

大牟田 英子

高橋 恭弘

松井 恒夫

氏名 池永 昇 (2011年11月)

テーマー

1. 水質保全の一つとしての音羽川からの定期的な一定量の砂の補給について。
2. 河川空間の快適利用としての、オープンカフェ・河川浴場の設置について。
3. 多様な生態系保存のための中洲・ 寄州管理の見直しについて。

提言したい意見

1. 砂防ダム・護岸のコンクリート化の影響により、鴨川に流れ込む砂の量がどれほど減り、またそれがどのような環境・生態系上の影響を鴨川に与えたのかは検証する必要がある。その一つとして、砂による河川の洗浄作用(大雨にのみ頼ることなく、通常の流れにより砂が川底の藻や有機物を洗い去る)が減少し、川底を汚くしている可能性がある。例えば、音羽川の砂が一定量流れれば、高野川から川下の河川が見違えるように綺麗になるのは経験則から明確である。実験的に試みる価値は十分にある。砂防ダムに貯まった砂を一定量定期的に砂防ダムの下に移動させる、もしくは水の抜ける穴を大きくし、砂の流れる量を増やす等。
2. 鴨川をより楽しくすることに意を注ごう。三条大橋から出町柳間に2ヶ所位のオープンカフェの設置を提案したい。これもまた、新しい楽しみ方を提供するということである。観光客も集まる(京銘菓やお茶を味あう等)鴨川の名所にしたいものである。また、高野川の宝ヶ池子供の楽園前の河川と、加茂川の産廃施設の在る上流部に、河川浴場公園を設置し、大人も泳ぎを楽しめる場所の設営を提案したい。泳げるといふことはとりもなおさず市民が水の水質に注意を向けるということでもある。
3. 中洲・寄州の撤去は河川工学の観点(洪水の予防)から提案されているが、寄州に関しては護岸の観点からしても見直す必要が在ると推察される。生態系保存の観点からは、避難場所を失くしたホタルや小魚や諸々の生物が大雨の激流で流され壊滅的打撃を受けた場所が存在する。上流部の中洲・寄り州の撤去が行われた高野橋の下流域では、撤去1年目で9割がたのホタル・小魚が姿を消し、2年目でホタルは回復するどころか残り1割の過半数が姿を消した。ホタルの幼虫のエサとなるカワニナが全く発見されないところを見れば5~6年での再生は不可能である。また、陽光を受け銀色に光る魚の姿は何年先に見えるのか。このことからすれば、10年のサイクルで中洲・寄州をこれまでと同じやり方で撤去し、少なくとも生態系の復旧に5~8年が必要とすれば、生態系保護などというテーマはお題目にすぎないものになってしまう。撤去のサイクルを伸ばすということ(必要なら、雨量のピーク時の一定量の水量を植物園や宝ヶ池公園等を遊水地として利用)、撤去のやり方・撤去後の形状・時期等を再考するということが必要である。また、出町柳から下流はさながら京都らしい風流さとは無縁の綺麗な運河の様相を示すようになってきているが、(七条大橋の上流には綺麗な川草が水中に生え揃い魚の宝庫となっていたが、今は石ころだけの綺麗な川である)このような有様を是とするか市民アンケートを取る必要がある。

氏名	上田文博
テーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鴨川の景観保全・空間について。</li> <li>2. 橋の美観について。</li> </ol>
提言 したい 意見	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鴨川の五条大橋～北山大橋の景観は、山紫水明の素晴らしいの一語に尽きる京都の誇る代表的資産ともいうべきものです。ところが2～3年前に出雲路橋の北、右岸（西岸）の所がスポーツ用グラウンドになった。野球、サッカーで一带は喧騒と砂ほこりで散歩どころでない。フリスビー（プラスチック製）、ドッジビー（布製）のゲームはフライングディスクが宙を飛び交い、散歩道に襲ってくる。顔・頭に当れば大怪我だ。ネットは無い。憩いと癒しのスペースを奪われ、市民はこの右岸を避け左岸を歩いている。スポーツ公園はもっと下流の八条以南や桂川の方に作ればよい。あくまで鴨川公園は憩いと癒しの空間であるべきで、スポーツ公園を指向すべきでない。春爛漫の桜の頃、賀茂大橋から北山大橋に至る堤防の桜のあの見事さは京都一のものだ。この大切な景観を台無しにするグラウンドは廃止を視野に入れ検討すべきだ。</li> <li>2. 鴨川は美しいが、そこに架かる橋は本当に汚い。鴨川の素晴らしい景観を台無しにすることおびただしい。デザインも賀茂大橋、北大路橋は秀れているが、他は単調な欄干が多い。そのうえ材料も問題で石の類なら雰囲気も出るが、多くは金属だから赤サビが出て見苦しい限りだ。その上垢、汚れ、カビで真っ黒で見た目も不衛生だ。鴨川の風景と全くミスマッチだ。順次山紫水明の地に相応しい清潔で、美しい姿の橋に再生していくべきだ。将来的にはパリのセーヌ川のように個性のある橋ばかりの風景が見られたらとの夢を抱いている。</li> </ol>

氏名	大牟田 英子
テーマ	① 流域治水対策(たのむ)と減災対策(そなえる) ② 昔の鴨川に近づけられよか 鴨川蘇れ! ③ 鴨川条例のこと(第2章,第3章) ④ 「千年の都」と流水(川)とビル(出来よか)
① 提言 したい 意見 京都大洪水 の原因 鴨川流域 いま 国も雨水貯留 浸透の推進 鴨川(賀茂川) の場合 質問1	今年9月に相次いで上陸した台風12号(9%)と13号(9%)。奈良県上北山村の総雨量は1800ミリを超え、各地で土砂崩れや河川の氾濫で多くの被害が出ました。 「温暖化 豪雨の時代」の四段ぬきの見出し(2011.10.9朝日新聞)をみて、鴨川でも流域治水対策と減災対策をはっきりわかりやすく市民にしらせ、「個人の備え」をする必要があるのでは...と思います。 今春の東北沖大震災のときも過去に学んでいないことが悔やまれました『昭和10年6月29日の京都大洪水』(昭和10年10月 京都帝國大学理学部海洋学教室)を再読しました。その緒論[5]では以下のことが記されています。 「30幾つかの橋が落ちて天下の耳目を驚かせたが、其の直接の原因は洪水量の大きなる外に、流木流枝の顆だき堆積で橋下を閉塞するに因ることを明にした。 上流地方では山崩れや広区域に亘る陸地の洗掘が行はれ、盛に土石流及び流木流枝を製造した。之に昨秋の風害による山林の荒廢が間接的原因をなしている。又下鴨や紫竹方面其他 徒木の京都郊外が近年廢範圍に亘り市街地と化し家屋が建並び且道路はほとんど全舗装されて雨水の浸透を妨げ一挙にして河中に流出する情勢になったことも、洪水の勢を増するに至った二次的副因とみられる」 鴨川はこの水害から抜本的に改修され、いま「鴨川下流域整備プラン」が策定されています。しかし森林や流域の様子は大きく変わってきています。森林の荒廢、水田がほとんど消え市街地化も紫竹より北、高橋あたりまで広がって、さらに車社会になって庭が車庫になり、マンションビルが林立しています。その頃よりは下水道は整備されてきましたか、雨水との合流式のところが多く、時間50分の雨にしか対応出来ず、豪雨のときはどうも鴨川に流出します。 「2007年3月に国土交通省から『都市における安全の観点から雨水の貯留浸透の推進について』という国交省の下水道部、河川局と含む11人の各課長名による通達が全国の地方整備局担当部長宛に出された。雨を排出すること一辺倒の治水は限界であるとし、国を挙げて雨水の貯留、浸透を推進していく方向性を打ち出した。『琵琶湖から広がる流域の雨水活用』(雨水ネットワーク会議全国大会 in 大阪実行委員会 2011.8.5)」 鴨川(賀茂川)は高水敷が広いこともあり、安心とも言えますが、散歩して気になるのは御園橋あたりのことです。堤防は高いけれど高水敷が狭いこと、秀吉のお堀の残っていること、京都大洪水もあつなかつたこと、さらに破堤したら、堀川通りをまたぐに下らないでしょうか。御園橋をがけかえとのことですがその時、何かお考えでしょうか。

氏名	
テーマ	
雨水の水質 減災対策 質問 2①	<p>北大路から上の新開地、私の住んでいる紫竹もふくめて雨水タンクを備えることをすめたいと思います。阪神大震災のとき、困ったのは水だったとか、雨をためておけば安心ということも併せてよびかけられたら、伏見工業高テクノシステムコースの三年生が校内の雨水タンクの水質調査を続けていて、雨水に含まれる不純物は水道水より少ないことが判明した。生徒たちは「雨水がきれいなることを知ってほしい」と言っている。(京都新聞 2011.1.13)</p> <p>ドイツでは雨水機器の規格が定められており雨水活用が産業として成り立っているとか。</p> <p>京都市「鴨川の「万が一」の洪水に備えて～鴨川浸水想定区域図の策定」(平成13年5月防災課、河川課)は概ね100年に1回で、越えつる降雨の浸水想定区域図と東海豪雨規模のもですが、国の中央防災会議は「1千年に1度(3日間で390~680ミリ)の雨が降った想定被害を拡大して検討」しているとのこと(2011.10.9朝日)。京都市としても策定されますか。</p> <p>② 堤防の計画高水位より上の芝生もコンクリート様にしたほうが良い。(高瀬川樋門以下の)</p> <p>③ 『京都市防災マップ 水災害編(北江版)大雨が引き起こす災害』(平成22年度)これも①と同様、とても素晴らしい編集になって市民として嬉しいですが、配るだけでなく、何らかの働きが必要は「行政は各地域の水害の危険性を事前にわかりやすく伝え、住民が雨の状況に応じて適切に避難する文化を醸成することが必要だ」(京都大学防災研究所 多々納裕教授(防災工学))</p> <p>Ex. ① 福岡市 植井川 市民共働型流域治水 流域すべての場所を対象に流域住民が保水・貯水・浸透により流出抑制と進めその水を利用する取り組み 2009.10.4より</p> <p>② 兵庫県 武庫川 総合治水条例と水(1) 武庫川(1)から(2)の総合治水(平成23.9.23)より</p> <p>③ 京都市 宇治川流域治水 京都市と宇治市がモデル地域と設けて流域貯留の住民取り組み支援 今後桂川、宇治川、木津川の三川合流の流域貯留連携もできたら。</p>
② 昔の鴨川 天然アユを守る! 中州除去	<p>右の七言絶句は昭和50年ごろに詠まれたものです。鴨の水で産湯をつかい、朝夕、東山の姿と眺の暮れて83年経ったという書家の作品です。</p> <p>芦荻の生い茂る洲の辺外には魚の姿が多く釣人の糸を垂れる情景も見られ千鳥も飛び交っていた。そんな優しい鴨川の姿はすっかり変わったが、昔の情趣と連想気持ちは果して誰に訴えらぶか。</p> <p>天然アユを守ることは昔の川をとりもどすことにつながると思います。いま各地の川で天然アユの湖上が試みられています。水生昆虫アユ、オカワネドリ(イカルネドリ、ゴケドリ、シロネドリ)どれも砂川の裸地環境を利用する生活を送っているとのこと。京の川の恵みを活かす会にとっても期待しています。</p> <p>中州寄洲の除去、出町の加茂大橋あたりは成功しています。ヨシが残されていて、</p> <div data-bbox="1037 1422 1428 1736" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鴨川 木村陽山 荻洲魚戲客垂絲 千鳥鳴聲昔夢追 鴨水優姿全變貌 改修已往欲尋誰 昭和五卯(魏京洛西冬壽)</p> </div>

氏名	
テーマ	
<p>③ 提 言 し たい 意 見</p> <p>④</p>	<p>洛中洛外凶暴風<sup>(いり)</sup>にある風情です。除去にあたり、一部<sup>こ</sup>川の深いところに埋めるやり方は<sup>いり</sup>か な<sup>い</sup>ので<sup>い</sup>か<sup>い</sup>瀬と淵があるのか<sup>い</sup>川だ<sup>い</sup>と思<sup>い</sup>うから、堰のところ右岸も左岸も川幅を少し広くして いますが(衝撃をやわらげるためのりい)、その部分の川はとらないと効果がないのでは?</p> <hr/> <p>1. 「京都府鴨川条例」の第2章 安心安全の確保(総合的治水対策の推進)の 目的としてはきり(総合治水対策)として府民・市民にわかり易い、具体的施策 などを掲げるときだと思<sup>い</sup>います。例えば「行政のすること」「流域住民のすること」、 「万一のときのためにある、さらに新築のビル、マンション、個人の家にも雨水貯留とするなど」 来年の鴨川府民会議で議題にして総合治水対策を確立して下さい。 森林組合の代表の方にもメンバーに加わっていただいて周知徹底していただくのも大事では。</p> <p>2. 第3章第1節 鴨川環境保全区域(鴨川環境保全区域内における行為の制限等 第9条「……知事の許可を受けなければならぬ……」は、逆に考えれば、 この狭い土地に建物も建てられず、土地の形状と変更出来る、と読むことも 出来ますね。ここは賀茂川の上流、すべての工作物はふさわしくないと考えざるを得 ない。不安な事項です。第2節 良好な景観の形成(工作物の設置)の第1条 1.2とも矛盾するのではないで(しょうか)。</p> <hr/> <p>他の川とのちがいのひとつに「千年の都と流れる川」で、いろんな歴史の舞台になっ て、想像してみると楽しくもあり怖くもあり、魅力があります。中世の絵図にはどれも 鴨の流<sup>い</sup>れか<sup>い</sup>かきこ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す。たとえば「一遍上人絵伝」には四條 橋が描かれてお シ、シリーズで「鴨川が舞台になる歴史の講演会」を開き、あと立派な本にして河川課 が出版するというのはいかがでしょうか。</p> <p>たとえば「鳥羽の作り道」(総みやこ図会めぐり 西野由紀(2010.11.1 京都新聞刊)) 『拾遺都名所図会』に収録されていて、江戸時代、大坂方面とこれ大魚介はここを 通って京中へ運ばれていました。鳥羽の津から羅生門までの道。いろんな話がある時。 EX. ①一寸法師が「佳吉の浦より御器を舟として都へのぼり鳥羽の津につぎ……」 ……また姫君を連れて都をはなれるときも「鳥羽の津より舟に乗る給ふ」 (『御伽草子 日本古典文学大系 岩波書店』) ②法然上人を讃岐国へうつしたてまつる折も「鳥羽のみなみの門より川船の上へ く下りたまふ」(法然上人行状書図オ34)</p> <p>鳥羽の津(山城国紀伊郡(京都市伏見区)桂川・鴨川の合流する辺) (『御伽草子』 同上)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

## 意見発表様式

氏名	高橋 恭弘
テーマ	1:鴨川の恵みと府民の最適な関係の多角的視点での検証について 2:鴨川の特徴的資質と抱えている問題を、どのように情報発信し関心を高めるかについて。
提案したい意見	<p>はじめに、第2次鴨川府民会議に参加し、鴨川が持つ多くの魅力と問題が個々明確になり、この会議が将来の鴨川のあるべき姿に大きな役割を担っている事を認識しました。その上で「京都府鴨川条例」「整備計画」「鴨川府民会議」などの内容を精査し継続的に協議を進める事が重要だと考えます。</p> <p>1:のテーマについて 鴨川を利用する人々は老若男女京都府民や来京者との捉え方だけではなく、さらに細分化した見方が必要なのではないでしょうか。例えば別紙参照事例のように、「想像するに、一人暮らしの経済的に豊かではない老人」「客観的論理的視点で鴨川を楽しむ人」、また、幼児や小学生が鴨川と触れあう、スポーツを楽しむ人、弁当を食べる人、犬と一緒に散歩をする人、通勤に使う人、表現が適切では無いかも知れないが社会的弱者と言われる人、等等生活環境により様々です。この会議のメンバー方々には当然の認識でしょうが、議論のベースに、さらに実態感を持ち多角的視野を持つ必要があるのではと感じます。鴨川に来る人々はどの様な期待を持ち、どの様に川と接しているか等深く考える事が必要なのではないでしょうか。府民にとって鴨川はどの様な存在なのか？ 仮に、京都に鴨川が無かったとしたら、都市空間は、人々の暮らしはどの様になっているでしょう。そんな事を考えると、鴨川が存在価値観がさらに見えてくると思います。 ここで、①「鴨川と人との良好で適切な関係はどうあるべきか」多角的認識が必要であり、②「良好な関係を維持推進する開発が必要」となります。人は自分を取り巻く環境や変化に敏感に反応し行動します。その視点で、快適空間作りが重要で①②の課題が見えます。</p> <p>2:のテーマについて 今まで会議で話し合われてきた多くの課題、災害治水、景観保全、自然破壊、生態系破壊、上流域森林保全、上流域の産業廃棄物工場、迷惑行為、イベントのあり方、開発の方向性等など、様々な問題があります。その一部を改善するには、鴨川を利用する多くの人々が鴨川に対する理解が進めば少なからず改善するのではないのでしょうか。例えば、河原でゴルフクラブを振る人、小学校の体育大会で河原を多くの父兄や見物人で、散策路をふさぐ、ゴミや食べ残した食物の散乱、野鳥への過度な餌やり、産業廃棄物処理工場のあり方等等など利用者の意識向上により、改善出来る事が多々あると考えられます。では、如何すれば？その方法は、情報発信啓蒙です。今までも行政から幾つか情報発信は行われていますが、もっとメディアを使った広報活動を考えると良いと思います。鴨川には歴史、文化、芸術、伝統、庶民生活、皇室との関わり、身近な動植物自然等等など多くの鴨川の特徴的資産資質があります。これらの素材を体系的に組み立て、いくつかの広報目的を設定、その目的ごとに広報戦略を立案、戦略実行計画を作、実行予算を計上し実施することはそれほど困難では無いでしょう。例えば、鴨川環境を良くしようと整備計画を実施していても、府民が何の為の工事をしているのかをもっと理解してもらい、鴨川が持っている財産を知ってもらう為府民との対話が大事だと思います。これが意識向上になり、理解改善に繋がります。このテーマで③「府民コミュニケーション広報戦略」の課題が見えます。 上記、2テーマから①②③の課題を意見として提案します。また課題解決の為、必要であれば、第27条にある条例の見直しの検討も同時に意見として提案したいと思います。</p>

## 意見発表（参考資料）

鴨川会議 「野鳥餌やりについて」  
散策者との注目すべき会話事例

2011.11.1

公募メンバー 高橋恭弘

**(事例 1)** 9月5日(月)午前10:00頃、  
 犬の散歩時、北山橋下流  
 高齢女性1人(80歳前後?)

鳩に餌やりをしていた女性に意識喚起を

- ・野鳥の鳩に餌やりをする事は、生態系を崩し糞害を近隣に及ぼしたり、トンビが人の弁当等を捕りに来たりすることの原因になったり、その時に人に怪我をさせたりするので、餌やりはお止めになった方が良いでしょう。
- \* あなた方みたいに裕福な人は立派な犬を飼って楽しめるけれど、私にはそんなこと出来ない。時々残したパンをちょっと鳩にやるくらいしか楽しみが無いのに、何であかんの？
- \* こんな10羽か20羽のハトの糞害って、そんなに問題？私には関係ない。
- \* なぜ貴方になんでそんなこと言われなければならないの？
- \* 人の楽しみを奪って嬉しいの？私にはこんな事しか楽しみないのに・・・。

**(事例 2)** 10月10日(月・祝)午後3:00頃  
 ランニング中、出雲路橋付近  
 初老の夫婦2組

上記(1)同様に野鳥への餌やりをしていた人々に意識喚起を促す。

- \* まず初老の男性が、\*野鳥の生態系を崩しているとは何を根拠に話されているのですか？
- \* 野生の生態系で正しい自然の状況とは、何を基準にどう判断されるのですか？
- \* また、野鳥の総数に(総数を確認しているのか?)対して、今の餌やり(2~30羽程度の野鳥)が全体にどの様な生態系に影響を与えているのですか？
- \* その検証はされているのですか？
- \* 実際の生態系破壊はどの程度なのか？本当に深刻な問題なののでしょうか？その様には感じられないが？
- \* 野鳥への餌やりが自然の生態系を破壊するのであれば、少し飛躍かもしれないが、鴨川河川全体を自然の状態から治水や公園化をすること自体が自然破壊であり野鳥やその他生物の生態系を壊している事になるのではないのか。
- \* 鴨川は多くの人々の憩いの場で有るはずではないのか？その憩い安らぎの方法が自然生態系を破壊すると言うのは飛躍すぎるのではないか？

- \* 大都市の中での河川の位置づけは、自然環境野生動植物保護等々と共存（当然人も）するものであり、野鳥への餌やりもその共存関係として認識しなくてはならないのでは？
- \* 例えば、幼い子供たちが、野鳥に餌をやる事で心が安らかになり、多くの事を学老人が鳥と戯れ安らぎを得るなどなど、いろいろな目には見えない良好な事が有るでしょう。
- \* 野鳥の餌やりが自然環境生態系破壊と言うなら、鴨川で人が飲食残を河原に残し、ペットの犬が大小便を（例え糞は持ち帰ったとしても、小便は残る）、休日の夕刻にはゴミ箱からゴミが溢れている。お花見シーズンの賑わいや、春の植物園横の河川での飲食イベント（鴨川四季の日？）、夏の四条界限でのイベント等などは自然環境生態系破壊そのものではないのか？
- \* また同じく自然破壊や生態系破壊と言うなら、上流で産業廃棄物が河川にあるのはどの様な認識なのか？それに比較し、私達がほんの1枚のパンくずを野鳥に与える事などは、生態系破壊と言うのは、どうも理解できないが。

等などと意見を聞いた。

### 上記2例で感じた事は

鴨川会議での大勢の意見・考えでは「野鳥への餌やり」が生態系破壊を引き起こす要因で改善すべき案件であるとの認識でしたが。上記2例を実感した後、再度客観的多角視点で「鴨川と人とのあり方」を考え直さなければ、ならないのではと感じました。

### 感じた事を箇条書きにすると（一例）

- 1) 大都市における河川である鴨川のあるべき姿は、あり方は。
- 2) 鴨川と府民や市民また観光客との関係はどうあるのか。
- 3) 鴨川が人々に与える憩いや安らぎと言う事は何か？
- 4) 鴨川河川の利用頻度の多い所について、多々な規制で枠を作るのが良いか？
- 5) 人と川との関わりが時代と共に変化することへの対応は？
- 6) 自然環境や動植物の生態系の変化についての再認識が必要なのではないか？
- 7) 50年～100年先の鴨川の環境を考えると、上流の産業廃棄物工場の問題は。
- 8) 50年～100年先を見据えた環境保全と開発や整備のあり方は。

等などが考えられます。長期視点やいろいろな考え感じ方の視点で、鴨川会議メンバー・行政メンバーが問題課題を共有し更に精査しながら鴨川のあるべき姿を再構築することが大切ではないかと感じています。

## 意見発表様式

氏名	松井 恒夫
テーマ	日本といえば、「鴨川」と言われるように。治水事業だけでなく、観光面でもモデルケースとなり、他府県（海外）の見本となる河川作りをする。
提言したい意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨洪水等の、異常気象に対しても万全な対策を立て、<u>流域の安全と情報の速やかな伝達方法を確立</u>し、安心、安全な河川として住民を守る。  その上で、憩いの空間として、人が自然と向き合い、自分を考えられる場所とする。誰もがホッとできる空間。（精神的な拠り所、癒される。）</li> <li>● <u>「鴨川を中心として」歴史にふれる、学ぶ。 自然環境、自然生態を守る。</u>  文化財や1, 200年以上にも及ぶ、<u>京都人の多岐に生かされている知恵を学ぶ。</u>（四百年以上も前からの歴史がある納涼床、南座等々）河川による都市計画、高さ制限等の景観維持。</li> <li>● <u>滞留ではなく、動線として</u>、京都に触れ合う、多種多様なルートを作る。  スタンプラリー等を使い、府庁の旧館や源流の志明院にもスタンプ台を置き、それらを集めて、初めて記念品をもらえるという形にし、色々な点と点を結ぶ新しい動線を作り、人々（観光客）を流動させる事。又、そのルートを辿る事によって、<u>ルート内の地域を活性化</u>させる事。（幕末ルート、古寺ルート、伝統工芸ルート、洋館ルート、自然観察ルート）  その中で、古都の歴史は勿論であるが、新しい京都の街や、京都人と接する事によって、精神文化や知力を多くの人に持ってもらえるキッカケにし、<u>地域住民との交流</u>をもっと深め、オール京都体制（企業、商店街、大学を含め）で<u>静かなる上にも、活気が生まれる空間</u>とする。（京都人、日本人としてのプライドを向上させながら）</li> </ul>